

仕事と家庭の両立へ

肌着のタカギ

環境整備は成長に不可欠

子連れ出張制度も

タカギ(奈良県橿原市)は、サニタリーショーツの草分け的なメーカー。OEM(相手先ブランドによる生産)に加え、天然繊維使用で肌への優しさを訴求する自社ブランド「ボデイヒッツ」などをECで伸ばしてきた。今後もう一段の企業成長を遂げるには、女性を中心とした人材の成長が不可欠と判断。仕事と家庭の両立を目指した職場環境の整備を加速している。

時短でも昇進可能

本社のある奈良県は女性就業率が全国最下位で、県外就業率が3位。同社は特に22年に高木麻衣社長が就任して以降、女性の体と女性に寄り添う企業理念を掲げ、働く環境の整備に力を入れてきた。

育児費用の会社負担のほか、時効で消える有給休暇を介護や育児休暇として持ち越せる「目的有給休暇制度」、時短制度を活用する社員でも成果を上げれば通常の昇給・昇任ができる仕組みなどを相次ぎ導入。珍しい「子連れ出張制度」も取り入れている。出張先に子供が同行可能で、顧客訪

問時間はベビシッターなどを活用する。「働きやすい環境整備はこれからも進めていくが、大事なのは皆が高いパフォーマンスを発揮し、会社の収益、そして自らの賃金を上げていくこと」と高木鎮廣代表取締役社長。例えば営業のシーンでも「過去のやり方では通用しなくな

(山田太志)



環境を整備し企業成長と賃金アップを目指す(大阪営業所)



女性の体と女性に寄り添う企業作りへ(主力ブランドの一つ「アヤメ」)

銀行からも評価

女性が働きやすい環境の整備を進める中、人材の確保でも効果が出てきた。長崎県の自社工場には一昨年に20代を中心とする女性4人が入社。昨年は、本社近隣の繊維関連工場から、5人の人員やマシン設備の引き受け依頼があり、小ロットの生産ラインを新設し

た。仲介に立った銀行からタカギの企業姿勢が評価されたものだ。今年10月31日には、男女共同参画社会の実現に向けた課題解決などを目指す「日本女性会議」が橿原市で開催される予定。40回の歴史の中で奈良県では初の開催となる。高木麻衣社長も企画部長を務めており、これを機に環境整備や地元への貢献などをさらに進めていく。

市で開催される予定。40回の歴史の中で奈良県では初の開催となる。高木麻衣社長も企画部長を務めており、これを機に環境整備や地元への貢献などをさらに進めていく。

た。仲介に立った銀行からタカギの企業姿勢が評価されたものだ。今年10月31日には、男女共同参画社会の実現に向けた課題解決などを目指す「日本女性会議」が橿原